

発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

H23年度 地域療育等支援事業 年間報告

地域連携情報室 松野 彩子 林 貴美子

東京都から平成9年度より受託している事業です。在宅心身障害児(者)の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられることを目的として実施しています。平成23年度の実施状況のご報告をします。

【外来療育等支援事業～療育相談～】

障害を持つかた、または発達上のご心配のあるかたご本人、あるいはご家族のかたのご相談に専門職が個別に応じる事業です。保険診療を受けずとも専門職と相談ができます。今年度の実施は2件で、医師、心理、PTなどが対応しました。

【施設支援一般指導事業】

地域で暮らす障害のあるかたを受け入れている機関・施設の、職員のかたのご相談に応じる事業です。機関・施設での対応の工夫、配慮などを助言させていただいています。スタッフが施設に出向く訪問相談と、施設のかたに当センターへお越しいただく来所相談の方法があります。

実施数は表①のとおりで、延べ118回を95箇所の施設に実施しました。図①のグラフからも分かるように、年度前半は利用が減少しました。震災による計画停電などがあり、地域全体に余裕が無かったのではないかと推測します。また、23年4月に開所した「島田療育センターはちおうじ」でも同様の事業があり、八王子市地域からの利用が分散したことで年度総数も減少しました。施設種別では、保育園、小学校、幼稚園の順に利用が多くなっています。

1施設あたりの年間利用回数は図②に示すとおりで、殆どの施設で1回の利用に留めていただいているのが現状です。職種別に関わった数は表②のとおりで、心理職での対応が多くなっています。

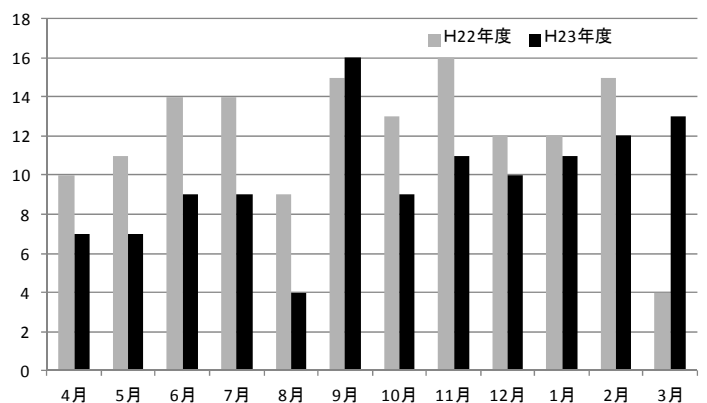
【訪問療育等指導事業】

家庭の場での訓練方法、姿勢保持、日常生活介助の工夫などのご相談に、専門職が家庭を訪問して応じる事業で、1件を実施しました。例年、重度の障害をお持ちのかたからのご相談が主となっています。

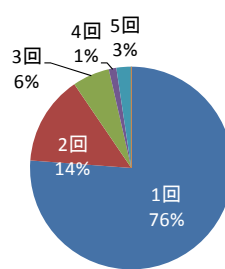
地域療育等支援事業のご利用については、本誌第4面にご案内がございます。これまで担当窓口が一部分散していましたが、平成24年度からは全事業を地域連携情報室で担当することとなりました。どうぞお気軽にお問い合わせください。

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実
特別支援学校	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3
保育園	23	17	18	14	7	7	1	1	0	0	1	1	50	40
幼稚園	7	4	7	7	4	4	0	0	1	1	0	0	19	16
小学校	12	9	21	15	1	1	1	1	1	1	1	1	37	28
中学校	0	0	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0	5	4
障害児(者)機関	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
その他(学童含)	0	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3
合計	42	30	53	43	16	15	2	2	3	3	2	2	118	95

表① 全体の実施数 延…延べ実施件数 実…実施件数



図① 昨年度との比較(月ごとの実施回数)



図② 1施設あたりの年間利用回数

職種	延べ数
医師	8
看護師	1
理学療法士	11
作業療法士	31
言語聴覚士	47
心理判定員	65
コーディネーター	114
その他(介護福祉士等)	3

表② 職種別に関わった延べ数

私の“感”点一障がいを超えた社会へ

副院長 有本 潔



平成24年2月26日(日)に、パルテノン多摩小ホールにて、第11回島田療育センター公開シンポジウムを開催しました。今回のテーマは「創立50周年～そして未来へ 私の“感”点一障がいを超えた社会へ」。創立50周年にあたり、法や制度の変革を迎えて、障がい福祉の原点に立ち返って当事者のお話を聴こうと企画し、3名の方に講演をお願い致しました。“感”点は、ふつうは観点ですが、頭で考えたことより、感じたままに捉えられた世界を共有することが、共生社会につながるのではないかと考えました。この造語は講演者にも受け入れていただき、大変熱のこもった話をお聴きできました。最初の演者、立教大学兼任講師・明治大学非常勤講師の堀越喜晴先生は、視覚障害をお持ちで、英語・言語学が御専門です。バリアーオーバーコミュニケーションという概念を提唱され、障がい当事者から見た「健常者」の世界をユーモアを交えて話されました。「感、間、環—いわゆる『ともにいきる』社会から、真に共に生きる社会へ」という演題には、バリアーは必ず存在し、あるがままの当事者を感じて受け止めることから、バリアーを越えたコミュニケーション・人と人との関係が生まれ、更に社会の中の障がい者を含む環につながり、障がい者のために(for)から、障がい者による(by)の次に障がい者とともに(with)といえる社会を目指すことができるという主張が込められています。第2席の高山恵子先生には、「発達障害の理解と支援」という題でお話いただきました。NPO法人えじそんくらぶの代表として、ADHDの理解や支援について多くの場所で発言されています。ご自身のADHDの気づきから、なぜ困り感を持つ

か、こどものキーパーソンである親や教師に特性が理解されないことの苦しさなどを語られ、現在は親のストレスマネジメントなどの普及に力をいれていらっしゃいます。文化としての「発達障害」の理解、お互いが少しずつ助け合う社会の重要性を説かれました。最後の文京学院大学人間学部教授綿祐二先生は、多数の障がい者施設を運営され、ご家族に障がいを持つ方がおられます。子どもの頃欲しかったのは車いす、などユーモアの中にも胸を突くお話で、「当たり前生活を当たり前!～地域で生きていくためには～」と題して、障がいを持つ方やその家族とのコミュニケーションの取り方、第三者が関与することの意味など、ケアに関わる者として重要なポイントを教えて頂きました。就労支援にも前向きに取り組むことで障がい者の社会参加の場が広がることを実践的な経験をもとにお話いただきました。

今回は手話と要約筆記を取り入れ、より障がいをお持ちの方が参加しやすくなるよう取り組みました。会場から手話を介しての質問もあり、今後点字の資料作成も含めて取り組むことを考えたいと思います。



Q

授業や活動の中で、司会や発表など、人前になる役割をやりたがらないお子さんがいます。どのように対応したら良いのでしょうか?

A

人前でのスピーチは大人でも緊張しますが、学校の中でも発表などを嫌がるお子さんがいます。理由として、発表の仕方が分からない、失敗してしまうかもしれないといった不安が強いことが考えられますが、より不安が高まると、社交不安障害と呼ばれる症状がみられることもあり、デリケートな対応が求められる問題です。

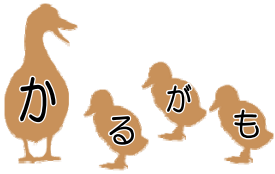
発表などを嫌がるお子さんの中には、注目されることへ不安を強く感じる子もいます。最初から大勢の友達の前立って発表できなくても、友達に向けて発言することに少しずつ慣れていけると良いと思います。まずは班など少人数の中で、座りながらでも発表する機会を増やせると良いでしょう。クラスの中で発表する際には、班の友達と一緒に前に出て隣にいることから始め、短い台詞を言ったり、友達と

交代で発表したりと、スモールステップで少しずつ出来るようになれば良いと思います。発表の仕方が分からず戸惑うお子さんには、事前に手順を確認するといった配慮も必要です。具体的には台本を用意する、友達の発表を見られるように順番を後にするといった手立てが考えられます。また、司会や発表をする機会があることを予め伝えられると、見通しが持てることで心の準備ができる子もいます。お子さんが『できた!』という体験を積み重ね、徐々に自信を持っていけるよう、少しでもできたことを褒めてあげましょう。一番大切なことは、お子さんにとって負担の少ないところから始め、決して無理強いをしないということです。

(心理判定員 足立 実)



第5回 PT科主催 保護者交流会



平成24年2月16日に「かがるも 家族交流会」を当センター厚生棟にて行いました。今回は当センターの管理栄養士である小林弘治さんを講師に招き、「食べること・調理方法」についてお話いただきました。参加希望の方に、日頃食事について悩んでいることを事前アンケートでお聞きしました。「とろみのつけ方を詳しく知りたい」「食事のレパートリーを増やすにはどうしたらよいか」等々、たくさんの質問・相談が寄せられました。

当日の講義では、食べる機能と食形態、道具を用いた調理の工夫についてのお話、小林さんのオリジナル・レシピ紹介など、盛りだくさんな内容でした。講義終了後は、保育ボランティアさんの協力もいただき恒例の家族交流会を持たせていただきました。「かがるも」に何回か参加しているお母様が、初参加のお母様に声をかけリードして下さり、懇談会がとても和やかな場になりました。「かがるも」に新しい輪が広がり続けています。

(理学療法士 宇井 秀子)



食べること・調理方法

始めに「食べる機能と食事形態」に関して、初期食と中期食の食べる機能とそれに適した食事形態について話しました。次に増粘剤について、各メーカーの増粘剤の特徴や違いを説明し(ご協力メーカー4社)、実技では、お茶と牛乳に同じ増粘剤(当センターでも使用)を加え、トロミがつきはじめる早さの違いと牛乳専用の増粘剤との違いを体験していただき、メーカーや混ぜる液体によって増粘剤の量や

混ぜ方を変える工夫やトロミのつき具合が違うことやを説明しました。また調理の工夫とレシピについてもお話しました。事前アンケートでリクエストが多かった、増粘剤を使用しないトロミや中期食のレシピを一部ご紹介します。参加者からは電子レンジやシリコンスチーマーを使用した簡単なレシピがほしいなど課題をいただきましたので今後作成していこうと思います。

(管理栄養士 小林 弘治)

ブリの煮魚で“マッシュ” & “テリーヌ” ♪

★材料

<マッシュ状>

- ・煮魚のブリ(調理したもの) 100g
- ・だし汁 30g
- ・冷凍 山芋とろろ30g(解凍しておく)



<テリーヌ状>

マッシュ状の材料+卵L玉 1/2個



★材料

- ・人参 100g(スライスする)
- ・玉葱 30g(スライスする)
- ・バター 10g
- ・水 適量
- ・お粥 50g
- ・コンソメ 1g
- ・牛乳 80g



★作り方

1. ブリの煮魚を温め(電子レンジ等)、皮と骨を取り除く。
2. ブリが温かいうちにフードプロセッサーにかける。
3. だし汁を加え、さらにフードプロセッサーにかける。
4. 解凍した山芋とろろを加え、よく混ぜると、なめらかなマッシュ状に。
5. お好みのあん・ソースをかければバリエーションUP!
6. 4に卵を加え、耐熱容器に入れラップをして蒸す(10分位)、又は電子レンジ(3分位)で加熱するとテリーヌ(状)の完成。

1. 鍋にバターを入れスライスした人参と玉葱を弱火で炒めます。
2. 野菜がしんなりしたら水をひたひたに入れ、お粥、コンソメを加え煮ます。
3. 野菜がやわらかくなり水分がなくなったら、牛乳を加え、ひと煮立ちさせて火を止めます。
4. 3の荒熱がとれたら、ミルサー又はミキサーにかけ出来上がり。

★コツ・ポイント

人参のかわりに、南瓜・かぶ・カリフラワー・グリーンピース・コーン缶など、
牛乳のかわりに、豆乳・低脂肪乳など、
お粥のかわりに、ご飯(25g位)・じゃが芋を使用してもおいしく出来ます。
またスープだけではなく、肉や魚などのソースにしてもおいしいです。

★コツ・ポイント

ブリに限らず、魚は煮魚ならサバ、カジキ等でもできます。また魚をお肉に変更してもできます。



お知らせ

デイケア新入所者募集

当センターでは1991年の10月より東京都重症心身障害児通所事業要綱に基づくデイケア事業を開始し、昨年度は開設20周年を迎えました。そして2012年度からは法律に基づく施設として再出発しました。

実施主体は東京都から市区町村となりましたが、東京都の医療型重症心身障害児(者)通所事業として就学前の児童及び18歳以上の利用者とも定員45名で、月～金曜日まで週5日間の開所を行っています。法内化に伴い、通所事業は多機能化し、一つに、児童福祉法を根拠とした児童福祉施設と定義される「児童発達支援センター」は、概ね3才以上の就学前のお子様を対象とし、現在登録数は10名で、10時～15時に開所されています。「児童発達支援センター」は身近な地域



における通所支援機能と通所利用障害児やその家族に対する支援を行います。加えて、3年以内には地域支援として「保育所等訪問支援」や「相談支援」機能が加わるようになっております。

もう一つに、障害者自立支援法を根拠とする「生活介護」の通所施設で、18歳以上の方を対象とし、現在登録数36名で、10時～16時に開所されています。また、送迎バスや週1回の入浴支援も実施しております。

昨年6月に「島田療育センターはちおうじ」にも生活介護の通所施設ができたこともあり、現在は定員に達していないため、通年、継続して利用者を募集しております。ご利用を希望される方はお住まいの市区町村障害福祉課に申請手続きが必要となります。見学を希望される方は、当センターの地域連携情報室(042-374-2101)までご連絡をお願いいたします。

(地域連携情報室 齊藤 美三男)

就学情報交換会(多摩)

日時 : 平成24年6月17日(日) 10:00～12:45
 場所 : 島田療育センター 厚生棟
 参加費 : 保護者・家族 1人500円、2人以上1,000円
 関係機関の方 1人500円(資料代等)
 ※当日、受付時にお支払ください

参加ご希望の方は当センターのホームページにある申込フォームよりお申し込みください。FAXでのお申し込みも受け付けております。申し込みの締め切りは6月11日(月)17:45までとさせていただきます。

※お問い合わせは地域連携情報室(TEL 042-374-2101)まで

地域療育等支援事業のご案内

① 外来療育等支援事業

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

② 施設支援一般指導事業

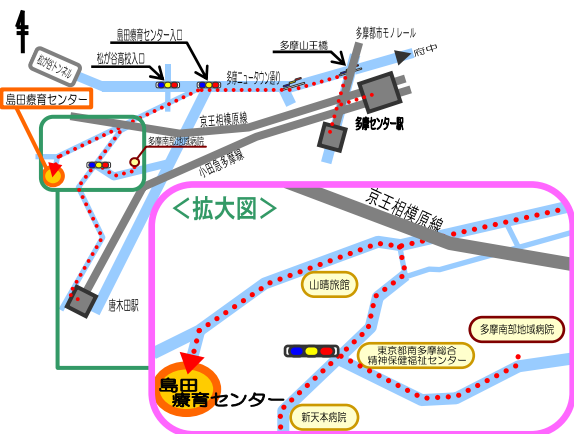
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象に、ご相談に応じます。

③ 訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

窓口: 地域連携情報室 TEL042-374-2101(直)

費用は…①②③とも無料です。



〈徒歩〉
 多摩センター駅下車
 →約20分

〈バス〉
 多摩センター駅
 バスターミナル12番
 乗り場
 「南部地域病院」行き
 →約7分
 終点「南部地域病院」
 下車→徒歩5分

新刊紹介

「くつろぎ」と「いこい」に新しい本が入りました!

島田療育センター後援会から107冊寄贈していただきました。子育て、発達障がい、摂食、子ども向けの絵本など様々なジャンルがそろっています。

島田療育センターにお越しの際は「くつろぎ」に。

島田療育センターはちおうじにお越しの際は「いこい」にお立ち寄りください。



編集後記

皆さんは金環日食をご覧になりましたか? 今年は天文ショーがまだまだ続くそうですよ! 6/4 部分月食、6/6 金星の日面通過、8/14 金星食。中でも金星の日面通過は243年に4回だけ起きる現象で今回を逃すと次見れるのは、2117年です。6時間半の間に4回見れるそうですよ。金環日食を見逃した方も、今回は見逃せませんね。見る時は、日食グラスをお忘れなく!! (林)

編集 : 社会福祉法人 日本心身障害児協会
 島田療育センター 支援部 地域連携情報室
 住所 : 〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
 電話 : 042-374-2071 (代表)
 E-mail : Info-room@shimada-ryoiku.or.jp
 URL : http://www.shimada-ryoiku.or.jp